

のお宅。hostlessであるそのProfessorの天人にだけ、歌をうたわせて欲しいと許可を得。他のProfessorには内緒。これは大成功でhostessにアンコールを言われた程です。

ニューヨークから

金子晶子

昨秋10月末、日本を後に私達はNew Yorkの北西、Syracuseという人口25万程の小都市に到着。ここは19世紀始め、今日のNew Yorkの発展に大きな貢献をしたErie Canal完成によって発展したHudsonの支流Mohawkの谷ぞいに運る都市の1つで、地形的には豊富な水河地形町の発展上からは、かつてのIndianの地名、塩の生産地を物語るSalt Museum Italyのシラクサに由来する市名等、なかなか興味ある町です。気候はちよと旭川程度ここで11-5月まで私達の越冬生活。とはいっても室内は25.6度。屋外ではcarの利用、確かに寒さは厳しいものでしたが今思い出すとそれだけに一応5月と共に一番にライラック、りんごetcの花に町中が囲まれてしまうのは、北国ならではの味えない大きな喜びだったでしょう。そして5月、教授と共に主人もSyracuse Univ. (地理の分野は有名でDr. Jamesとの話合、渡辺先生との出会等印象的でした)からUniv. of Californiaへの転勤。その前にアメリカ東岸をみたいものとCaliforniaをかわきりにWashington, Niagara Fall Ottawa - Montreal, New York etc 毎週carによる旅を楽しみました。たか何といっても最大の旅は約2週間3500マイル(約600km)をcacで走破した大陸横断の旅だったでしょう。見渡す限りのcorn beet 牧場。6月というのに2m近くの残雪のRocky 越え。そして3日と続いたdry area。広大な国だどつくづく感じつつやっとな数日前Sacramentoの郊外ここDavisに到着したわけです。さてこれから残る1年半。変化の多かつた前半に比し今度は少しじっくりとアメリカの内面性等みていきたいと考えています。